

グリーンインフラで創る国際園芸博覧会

国土交通大臣(国際園芸博覧会担当)

斉藤鉄夫

さいとう てつお



2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO 2027)は、グリーン社会の実現に向けて、テーマである「幸せを創る明日の風景」を皆で考え、共に創っていく、そしてSDGsの達成や関連業界の成長・発展等の成果につながる博覧会としていきたいと考える。開催まで間もなく3年。会場計画が徐々に具体化しており、博覧会協会において企業や自治体への出展勧奨が行われるなど、開催に向けた準備が着々と進んでいるところである。

近年、気候変動への対応や生物多様性の確保といった地球規模の課題が顕在化しており、持続可能な社会の実現が改めて求められてい

る。そうした課題解決の一つの方向性として、わが国においては、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める観点から、自然環境が有する多様な機能を活用するグリーンインフラの実装を推進している。

2027年国際園芸博覧会は、「幸せを創る明日の風景」をテーマに、花や緑、食、農との関わりを通じ、自然と共生した持続可能で幸福感の深まる社会の創造を目的として開催する。本園芸博の開催年である2027年は、SDGs達成年の2030年を目前に控え、2030年以降を見据えた持続的な社会へのビジョンを共有することが重要となる年である。このため、本園芸博は、地球規模の課題

に対し「みどり」と共に生きていくわが国の姿勢を世界に発信する重要な機会としても活用していく。会場には政府が主導するグリーンインフラやGX(グリーントランスフォーメーション)等を実装した様々な展示を行い、わが国が目指す社会・暮らしの将来像を提示することで、地球規模の課題解決に向けたわが国の姿勢を、世界に向けて発信していく。

これまでの政府の取り組み

2022年3月に、「令和九年に開催される国際園芸博覧会の準備及び運営のために必要な特別措置に関する法律」が成立し、同法に基づき、同年4月に本園芸博の準備および



会場イメージ



会場区域の航空写真

いる。当該地の自然地形を生かした空間形成、植物の多様な機能・役割、企業などの技術等を活用し、グリーンインフラが実装された会場や、会場の設備自体を展示の一つとして国内外に発信する。閉会後も、本園芸博の会場計画の理念が継承され、グリーンインフラが実装されたまちづくりが進むことが重要であり、本園芸博の会場そのものがグリー

ンインフラのモデルとして全国各地に発信され、水平展開されていくことが期待される。私自身も2023年6月と7月に開催された「G7三重・伊勢志摩交通大臣会合」「G7香川・高松都市大臣会合」の機会を通じて、関係大臣に出展を呼びかけるなど働きかけを行ったところであり、引き続き海外出展勧奨を進めたい。

本園芸博は、経済界・企業の皆さまによる産業活動とGREENの力の融合によって、グリーン社会を共創する場となる。また、会場において地球規模の課題解決への取り組みを先導していくことで、ひいては日本の産業や経済の成長・発展へとつながる。この多様な分野、主体との連携のもとに創る「GREEN×EXPO 2027」の姿を、日本・横浜から世界に発信し、共有されることを目指していく。

博覧会は、人類の英知を共有するとともに、風土・文化を見つめ直し、現在の社会が抱える共通課題に対する将来像を示す場として開催されてきた。本園芸博もグリーン社会を世界に示すため、「幸せを創る明日の風景」を皆で考え、共に創っていきたいと考えている。経済界・企業の皆さまにおかれても、引き続き、本園芸博の成功に向けてご支援・ご協力を賜りたい。

運営を行う法人として、2027年国際園芸博覧会協会を指定した。さらに、同年6月の閣議決定を踏まえて、BIE(博覧会国際事務局)に対し認定申請を行い、2022年11月に開催された第171回BIE総会において、国際条約に基づく国際博覧会として認定された。

政府としては、本園芸博の円滑な準備および運営に資するため、「2027年国際園芸博覧会関係閣僚会議」を設置し、2023年4月末の第1回関係閣僚会議において、岸田総理から、本博覧会の成功に向け、政府が一丸となるとともに、博覧会協会や神奈川県・横浜市など関係自治体、経済界なども含めて

オールジャパンで連携し、開催準備に万全を期すよう指示があった。同指示を踏まえ、同年8月末に開催した第2回関係閣僚会議において、博覧会の円滑な準備および運営に関する政府基本方針を決定し、政府全体で必要な対策を着実に進めることとしている。

今後への期待

2023年秋から、横浜市によって土地区画整理事業の基盤整備工事などが着手され、いよいよ本格的な会場整備が開始された。

国土交通省としては、グリーンインフラ推進戦略に基づき「グリーンインフラで創る国際園芸博覧会」の実現に取り組むこととして

いる。当該地の自然地形を生かした空間形成、植物の多様な機能・役割、企業などの技術等を活用し、グリーンインフラが実装された会場や、会場の設備自体を展示の一つとして国内外に発信する。閉会後も、本園芸博の会場計画の理念が継承され、グリーンインフラが実装されたまちづくりが進むことが重要であり、本園芸博の会場そのものがグリー